

突撃インタビュー

編集部ハルちゃんが行く！

ハルちゃんって誰？



本誌の編集担当者。先月は誕生日だったので、友人からのお祝い飲み会が数回、知人のオケの受付手伝い2回(＝演奏会後の飲み放題打ち上げご招待)が重なって、もとより丸い顔の直径がさらに増加の一途をたどっております。そしてつい先日、スペイン料理屋でたらふく飲み食いした後、友人から「あ、これ誕生日プレゼント」といって花束とともに手渡されたのは『〇〇ダンスで即！やせる』というDVD付きムック…。なにこのアメと鞭プレイ(T_T)

今回は世界唯一のローラ専門メーカー、東振精機さんにインタビュー。この厳しい時代をローラ1本で展開している、匠の技が光る会社です。そもそもなぜローラ専門に絞ったのか!? 今回も基礎の基礎から伺いまーす！

第66回目 株式会社 東振精機



〒923-1121 石川県能美市寺井町ハ18番地
TEL(0761)58-5222 FAX(0761)58-5221
<http://www.tohshin-inc.co.jp>

お話を伺った方



取締役社長

中村 敬 氏



取締役
(技術・品質部門担当)

畑下 栄二 氏

□■今回のお題：ベアリング用ローラ■□

会社の沿革は？

ハル:御社は世界唯一のローラ専門メーカーと伺ったのですが、まずは会社沿革から教えていただけますか？
中村:わが社は1956年、石川県金沢市にベアリング組込用円筒ころ製造を目的として「東振精機株式会社」を設立したのがはじまりです。試作品が評価を受け、1958年1月より本格的に販売を開始しました。社名は「東の国(＝日本)」の「東」と「産業振興」の「振」からとったようです。現在は製品を製造する「株式会社 東振精機」、総務や経理、人事を担当する「株式会社 東振」、東振精機の専用治具の製作や機械の製作・修理などを担う「株式会社 東振テクニカル」をグループ組織としています。東振テクニカルは東振精機、つまり自分たち用の機械をつくってききましたが、ずっと自社内しか見ていないと周囲から遅れているかどうかなどの判断が難しくなるため、外販もして反応をいただいています。ローラをつくるための心なし研削盤などを販売すると、東振精機と東振テクニカル両方からユーザに食い込めるというメリットもありますしね。

ハル:それぞれ役割分担されているのなあ。でも時代の動きが激しかったなかでローラ1本に絞った専門メーカーとして発展してこられたのはすごいですね。そもそもなぜローラを選んだのでしょうか？

中村:創始者が東京大学で冶金を専攻し、その後三菱重工に勤めていたという背景もありますが、多くの選択肢の中からローラに焦点を当てたのはさまざまな理由があったようです。例を挙げると、まずわが社が設立された裏日本はどうしても情報入手が遅くなる。そこで流行や変化が激しいものは避け、こつこつ地道にやっていけるものであること。円筒ころは会社設立当時、工作機械をはじめ「回転」するものにはまんべんなく使われていたのです。また、ユーザは太平洋側が多かったため、輸送に無駄がないもの、つまり目いっぱい詰められる製品であることや、材料が近くにあること。加えて類似のもので成立している分野があるかどうか。設立当時、ボールベアリング専門メーカーはすでに確立されておりましたので、ローラベアリング専門メーカーも成立できる

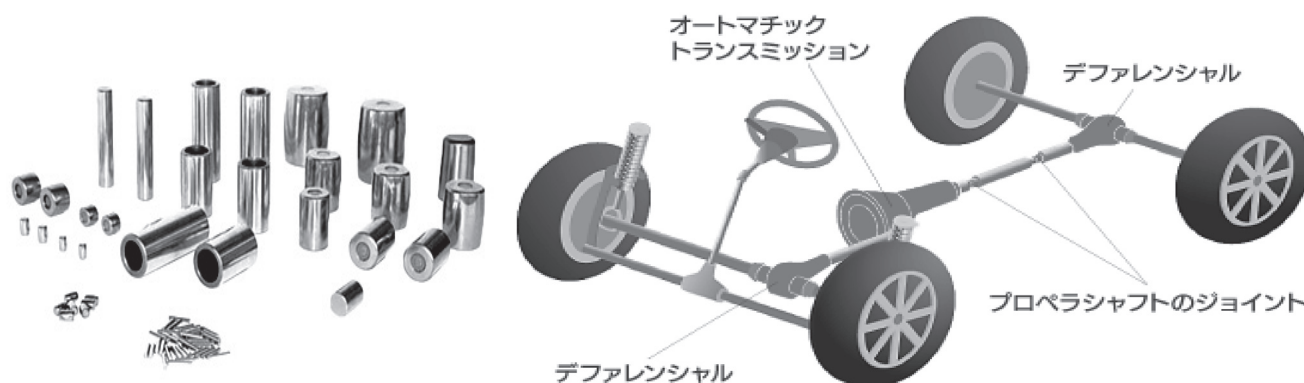
のではないかと考えたようです。

ハル:さまざまな角度から分析して導き出された答えだったのですね！じゃあずっと会社設立当時から今のよう高いシェアを獲得して…。

中村:いえいえ、当初はいろいろと苦労したようです。試作品が出来上がっていきなり売れ込んでも、「ローラは自分のところでつくるからいいよ」と言われ、なかなか売れなかったようです。事前にもっと細かくマーケティングしていたら、ローラを選ばなかったかもしれませんね(笑)。でも今になってみると、下手にマーケティングを重視していたら価格や目の前の需要だけにとらわれた製品づくりをしていたかもしれません。自分たちが理想とする製品づくりを目指したおかげで、現在があるのだと思いますね。

ハル:いいものをつくっていれば、自然と評価がついてくるものなのだなあ。たとえばどのような特徴があったのでしょうか？

畑下:一例を挙げると、当時のベアリング用ローラの外側は研磨するのが一般的でしたが、わが社ではゲージをつくる時のようにラッピング



東振精機さんが手掛けるローラの数々(左)と、そのローラたちが使われている一例(右)♪
普段は目にすることがないけれど、ローラは私たちの生活に欠かせない存在なのですね！

していたので精度が高かったのです。そういった点が評価されてユーザが広がっていきました。

ハル:なるほど～。

中村:我々の取引先となるベアリングメーカーは、ユーザであると同時にライバルでもあるのです。だいたいのベアリングメーカーでは内製部門として自社でもローラをつくっていますからね。そこへわざわざ外部からローラを買ってもらうようにするためには、自社ではできない付加価値をつけなければならぬ。

ハル:「安い」とか「納期が早い」とか、何かメリットがなければ買ってもらえないんですね。

中村:そうです。わが社はそれに加えて自社開発設備による高品質な製品づくりを続けてきていることで、ユーザ様に信頼をいただいていると思います。

ハル:御社は経済産業省の「元気なモノ作り中小企業300社」や「中小企業IT経営力大賞 審査委員会奨励賞」なども受賞されていますもんね。創業当時のものづくりに対する精神が、今なお脈々と流れているのですね！

ベアリング用ローラってナニ？

ハル:ところで、先ほど少しお話に出てきた「ボールベアリング」と、御社が手掛けている「ローラベアリング」はどう違うのでしょうか？

畑下:ボールベアリングはその名の通りパチンコ玉のようなボールを使ったもので点接触、ローラベアリングは円筒状のものをを使った線接触のものです。荷重が大きいものは、ボールベアリングよりローラベアリングが使われることが多いですね。

ハル:船を浜から海へ移動させるとき、船の下に丸太を並べるのと同じ考え方なんですね。ということは、種類からいうと太いか細いかの違いくらいなのかな...

畑下:円すいころ、円筒ころ、球面ころ、ピン、シャフト、針状ころ、中空ローラ、極小円筒ころなどさまざまな品種がありますよ。それぞれにおいて各サイズのを加工し、ユーザのニーズに応えています。

ハル:そ、そんなに種類があるものだったんですか(恥)。

中村:このような品種の広がり、大手ベアリングメーカーとの長年にわたるお取引から培われたものです。品種によっては日本シェアの7割に達しているんですよ。

ハル:ええっ、すごい！ 御社のローラはどのようなところに使われているんですか？

畑下:ベアリングや減速機、カムフォロア、モータなどに組み込まれています。あらゆる回転機構で摩擦抵抗を抑えるために必要不可欠なものなのです。

ハル:ベアリングにもいろいろな種類

があるから、それに対応したローラを提供なさっているんですね。

畑下:そうですね。わが社のローラが組み込まれているベアリングには、円筒ころ軸受、円すいころ軸受、自動調心ころ軸受、針状ころ軸受などがあります。自動車でみると、エンジンやトランスミッションから足回りまでさまざまな箇所に使われていますよ。

ハル:それだけいろいろな箇所で使われているとなると、御社で手掛けるパリエーションも広いのですね。100種類くらいあったりして!?

畑下:わが社で手掛けているローラはだいたい毎月800種、個数では毎月3億弱個製造しています。1日で見ると約1000万個ですね。

ハル:そ、そんなに！ 想像をはるかに超える数字で腰が抜けました...

今後の展望

中村:「大手メーカーの補助的な位置付けではなく、お客様と対等に話ができる企業にならなければ存在する意味がない」というのが、創業当初からのわが社の考え方です。単にJIS規格をクリアする製品をつくるのではなく、それ以上に厳しい、シビアな規格を独自に定めています。今後もすべてのお客様が満足するような高精度なローラをご提供していきたいですね。

取材のあとのお楽しみ♪

石川県といえば、和菓子に魚介に加賀野菜にと、おいしいモノがてんこ盛り♪ 今回初挑戦したのは、石川県の郷土料理「フグの子のぬか漬け」でございます。フグの卵巣を2年以上にわたって塩漬けおよびぬか漬けた珍味で、フグなんて1年にいっぺんでも食べられればいいほうの庶民なワタシとしてはかなりドキドキ... (毒が怖くてドキドキしてたのもありますが)。製法からみてもわかるように塩気はかなり強いですが、そのぶん濃厚なコクと独特の風味が増して、日本酒の肴にもってこいだわー！ ちなみにべにはふぐの子茶漬けを。ああ、シアワセなひと時だったなあ...

こんなモノ
★見つけました★



『東振フィロソフィ』

全社員に配布され、各部署の朝礼などでも読まれているのが、この『東振フィロソフィ』。京セラの創始者・稲盛和夫氏の『京セラフィロソフィ』が原版ですが、社員一人ひとり、全員が主役となって社是の「創る 考える」を実践し、自分と会社の成長を築いてゆくための道しるべとなっています。私も読んでみたいぞ...